公益社団法人日本薬剤学会　2019 年度事業報告

（2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで）

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

まえがき

今年度は公益社団法人としての責務を遂行するに当たり，上掲の「公益目的事業 1」を着実に推進するための事業計画を立案し，理事会を中心としたガバナンス体制の下，着実に事業の運用を図った．また，健全な財務基盤の確保も円滑な事業運営の課題であるが，事業ごとに精査を行い，こちらも適正運用の達成に努めた．

会長

1　APSTJ 2025 推進事業

- 理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討を行った．
- 日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランの推進についての検討を行った．
- 国内外の関連学協会との交流事業を推進した．

2　国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について，必要な情報を整理しつつ，実施に向けての戦略を立案し，関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進した．

副会長総務担当理事

1　学会賞等表彰事業

1.1	薬師メダル	受賞者なし
1.2	学会賞	受賞者　高倉　喜信
1.3	功績賞	受賞者　渡邉　善照
1.4	奨励賞	受賞者　西村　友宏，金沢　貴憲
1.5	タケル&アヤ・ヒグチ記念栄誉講演賞	---当期設定なし---
1.6	タケル&アヤ・ヒグチ記念賞	受賞者　尾関　哲也
1.7	永井記念国際女性科学者賞	受賞者　Shirui Mao
1.8	創剤特別賞	受賞者なし
1.9	優秀論文賞	受賞者　K. Kawakami, Y. Bi, Y. Yoshihashi, K. Sugano, K. Terada Y. Onuki, A. Kosugi, M. Hamaguchi, Y. Maruo, S. Kumada, D. Hirai, J. Ikeda, Y. Hayashi
1.10	製剤の達人称号	受賞者　市川　秀喜，砂田　久一，竹内　洋文，山下　伸二
1.10	国際フェロー称号	受賞者　Shirui Mao
1.11	「薬と健康の週間」懸賞論文	第 1 席　髙瀬　理那 第 2 席　宮城　那津 第 3 席　伊木　亮司，松尾　瑞帆

2　創剤開発・研究賞表彰事業

2.1	旭化成創剤開発技術賞	受賞者　太田　琴恵、堀内　保秀、高木　卓
2.2	旭化成創剤研究奨励賞	受賞者　門田　和紀、兒玉　幸修

渉外担当理事

1　学生主催シンポジウム事業

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営スキルを涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム SNPEE 2019 を開催した．

テーマ　“「Collaboration　～薬剤学で未来を切り拓く～」”

特別講演「においは薬になりますか？」伊藤　美千穂先生（京都大）
2019 年 5 月 17 日，富山国際会議場　　参加者 約 60 名

2　広報委員会事業

学会ウェブサイトをリニューアルしてより使いやすくすると共に，本学会の活動の広報や，会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図った．また，オンライン化した「薬剤学」誌のウェブサイトからの情報発信を編集委員会と協力しながら行った．

3　医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，年会において「医薬品包装シンポジウム」を開催した．

「医薬品包装機械の変遷と今後の展望」
2019 年 5 月 18 日，富山国際会議場　　参加者 約 100 名

4　教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，年会においては以下のとおり薬学教育シンポジウムを開催した．

「今一度、4 年制・6 年制を考える」
2019 年 5 月 18 日，富山市民プラザ　参加者 約 100 名

国際連携担当理事

1　英語セミナー事業

国際共通言語である英語での討議能力を養うため，訪日した海外研究者・国内の研究者等を講師として招聘し，講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を日本の各地区で実施した．

1.1　英語セミナーExtra
2019 年 7 月 10 日（The 3rd Workshop for Japan-Korea Young Scientists on Pharmaceutics）
千葉　参加者：約 220 名

1.2　第 1 回英語セミナー
2019 年 7 月 30 日　徳島大学：参加者 59 名

1.3　第 2 回英語セミナー
2019 年 9 月 30 日　富山大学：参加者 37 名

2　国際学会等協力事業

2.1　FIP（国際薬学連合）
79th FIP World Congress of Pharmacy and Pharmaceutical Sciences（UAE，アブダブ，9 月 22-26 日）に Delegate を派遣したほか，日本病院薬剤師会が主催した Japan Night を主催した．PSWC2020（カナダ，モントリオール，5 月 22-27 日で開催予定：COVID-19 の影響で 1 年延期決定）に関して会員の参加を呼びかけを行った．
FIP 連絡会議に，会長・担当理事代理を派遣し，他の FIP 会員学会と情報共有を図った．
FIP 会長 Dominique Jordan 氏を招いた講演会を開催予定であったが，COVID-19 の影響でやむを得ず中止となった．

2.2　AFPS（アジア薬科学連合）
AFPS2019（インドネシア、バリ、10 月 23-27 日）に担当理事を派遣し、会合、ならび AFPS 運営会議に出席した．AFPS2019 の企画・運営に参画した．

2.3　第 3 回日韓若手薬剤学研究者ワークショップ（千葉，2019 年 7 月 10 -11 日）を共催開催し，4 名の若手研究者を派遣した．

2.4　タケル&アヤ・ヒグチ記念賞の受賞者記念講演（カンザス大学，2019.12.10-11）に，会長を受賞者の同行講演者として派遣した．

機関誌担当理事

1　「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行った．「薬剤学」のコラムについて，「夢対談」，「偉人伝」などの企画を継続した．また，原著論文については J-STAGE での Web 公開と同時に，他の記事は Web 公開の半年後から全情報を公開し，「薬剤学」の引用率向上に努めてきた．

2　投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文を審査し，2 件の優秀論文賞を推薦した．

3　学会誌出版事業

3.1　機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行した（80 巻 1 号のみ冊子も発行，他は web 版のみ発行）.

Vol. 79 No. 3　2019 年 5 月 1 日発行
Vol. 79 No. 4　2019 年 7 月 1 日発行
Vol. 79 No. 5　2019 年 9 月 1 日発行
Vol. 79 No. 6　2019 年 11 月 1 日発行
Vol. 80 No. 1　2020 年 1 月 1 日発行
Vol. 80 No. 2　2020 年 3 月 1 日発行

英文論文についても積極的な投稿促進を図った.

3.2　公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

昨年度に引き続き JDDST の購読促進を図った．2019 年度は以下の通り発行した.

Vol.50	April, 2019	Vol.51	June, 2019
Vol.52	August, 2019	Vol.53	October, 2019
Vol.54	December, 2019	Vol.55	February, 2020

書籍担当理事

1　出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行った.

1.1　製剤技師認定試験のシリーズ書籍として、「製剤技師認定試験の問題と解説（第 6 回～10 回）(案)」（監修：日本薬剤学会 製剤技師認定委員会）の企画編集を行った.

1.2　薬剤学会フォーカスグループ（FG）の活動をベースとしたシリーズ書籍として，Quality by Design に関する書籍（監修：日本薬剤学会 製剤処方・プロセスの最適化検討 FG）及び小児製剤ハンドブック（監修：日本薬剤学会 個別化製剤 FG）の企画出版を計画した.

技術担当理事

1　製剤技術伝承講習会事業

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により, 滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため，座学・実習の講習会を企画運営した．今期は以下のとおり開催した.

1.1　第 25 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「経口製剤の製剤設計と製造法」　参加者 22 名
2019 年 6 月 5-6 日，7 月 2-3 日　名城大学ナゴヤドーム前キャンパス

1.2　第 16 回製剤技術伝承実習講習会
「探索から臨床へつなぐ効率的プレフォーミュレーション評価」　参加者 32 名
2019 年 8 月 30-31 日　星薬科大学

1.3　第 17 回製剤技術伝承実習講習会
「連続生産システムにおけるプロセス制御とレギュレーション」　参加者 16 名
2019 年 9 月 5-6 日　㈱パウレック

1.4　第 26 回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会
「非経口製剤の製剤設計と製造法」前編　参加者 29 名
2020 年 1 月 10-11 日　大阪大谷大学ハルカスキャンパス
*2 月 27-28 日開催予定の後編は，COVID‐19 の影響のため 2020 年 8 月に延期した.

2　製剤技師認定事業

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究･開発･製造担当者で, 日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規･制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する．今年度も本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため，様々な活動を展開した．今期の開催と認定者は以下のとおり.

2.1　第 10 回製剤技師認定試験　30 名受験
2019 年 10 月 19 日　慶應義塾大学三田キャンパス／神戸薬科大学

2.2　第 9 回製剤技師認定者（25 名，合計認定者数 242 名）
天野 陽平，池田 利央，稲垣 宏弥，上口 達也，上山 慶太，宇髙 麻子，内田 真吾，大島 譲介，菅野 裕也，栗原 慎弥，穀田 哲也，下町 康行，白井 貴士，新川 豊英，鈴木 彬紀，時庭 直人，中村 祐輝，西田 憲晃，長谷川 高之，原田 和樹，松井 純子，宮田 慶亮，森下 和茂，山口 俊輔，吉永 亮

2.3　製剤技師認定試験第 6 回～10 回の問題と解説，および傾向と対策をまとめた「製剤技師認定試験の問題と解説（第 6 回～10 回）(案)」（監修：日本薬剤学会 製剤技師認定委員会）の企画編集を行った.

製剤・創剤セミナー担当理事

1　製剤・創剤セミナー事業

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者・学生が一堂に集い，医療・薬剤学に関し, サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤・創剤セミナー」を以下のとおり開催した.

1.1　第 44 回製剤・創剤セミナー　　参加者 132 名

「医療ニーズの変貌に挑戦する製剤・創剤」

2019 年 8 月 22-23 日，湘南国際村センター

公開市民講演会事業担当理事

1　公開市民講演会事業

一般市民を対象とした公開市民講演会を企画し，今期は以下のとおり開催した.

「地域医療における薬剤師の未来：宮城からの発信」　　参加者 40 名

2019 年 10 月 5 日，仙台市中小企業活性化センター

FG 担当理事

1　FG 統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として，事業・予算の管理を行い，各 FG に対する助言や FG・理事会間のリエゾンを担当した.

日本薬剤学会の現状及び FG 規約を各 FG に周知する目的で，各 FG リーダーを含めた FG 統括委員会を年会期間中に開催した．事業・予算の管理のための FG 統括委員会はメール会議で対応した．2018-2019 年度の各 FG の活動状況を評価した.

・FG 統括委員会

2019 年 5 月 16 日，富山国際会議場　参加者 17 名

以下，各 FG の活動報告概要を示す.

- 【経口吸収 FG】

経口吸収に関わる幅広い課題を中心に情報交換し，新たな経口吸収研究を開拓するため，以下の企画を実行した．本年度の合宿討論会では，2 件の招待講演（「新薬およびジェネリックメーカーでの製剤設計・製造設計」（谷野 忠嗣 先生），「製剤・DDS 研究がもたらす価値創造」（近藤 啓 先生）を含む活発な討論がなされた.

・第 9 回経口吸収フォーカスグループ合宿討論会

（2019 年 11 月 26-27 日　　三保園ホテル（静岡市））　参加者 31 名

・日本薬剤学会第 34 年会ラウンドテーブルセッション 3「経口吸収研究を加速させるモデリング&シミュレーション」

（2019 年 5 月 17 日　富山市民プラザ）　参加者 約 150 名

- 【経皮投与製剤 FG】

疑似角層細胞間脂質膜を用いた研究，化粧品の官能評価，角層構造に対する水の影響，最近市販されたテープ剤に関する話題，局所製剤の同等性に関する話題などに関して，多方面の参加者の討論を目的としたシンポジウムを開催した.

・第 11 回経皮投与製剤 FG シンポジウム

（2019 年 12 月 20 日　城西大学紀尾井町キャンパス）　参加者 147 名

医療現場における保湿剤の有用性について, 病院薬剤師と化粧品，製薬企業，大学研究者が議論する場として，日本医療薬学会（福岡）との共催シンポジウムを開催した.

・第 29 回日本医療薬学会年会

（2019 年 11 月 3 日　福岡国際会議場）　参加者 270 名

シンポジウムタイトル「臨床現場における保湿製剤の重要性と経皮適用製剤」

オーガナイザー：内野智信（静岡県立大），徳留嘉寛（城西大）

- 【経肺経鼻投与製剤 FG】

・日本薬剤学会第 34 年会学術シンポジウム 2「経肺経鼻投与製剤の設計と体内動態評価」(2019 年 5 月 16 日、富山国際会議場，100 名以上参加）：「経鼻投与による薬物・バイオ医薬の中枢デリバリー」，「膜透過ペプチド固定化高分子を用いたバイオ医薬品の経鼻吸収促進技術の開発」，「肺内でナノ粒子を構成する DDS 型吸入粉末剤の開発とその評価」，「印刷工学技術の発展的応用による吸入用微粒子設計と生物薬剤学特性評価」の各演題でシンポジウムを開催し討論を行った.

・Inhalation Asia 2019 (Hong Kong Science and Technology Park - 13 to 15 November 2019) を joint symposium として開催した.デモのため会場は Hyatt Regency Hotel Hong Kong Sha Tin で行われた.

- 【核酸・遺伝子医薬 FG】

核酸医薬および遺伝子医薬に対するデリバリー製剤に関して以下の行事を開催した.

・日本薬剤学会第 34 年会（富山国際会議場） FG ラウンドテーブル「次世代を担う核酸医薬 DDS 技術の新領域」（2019 年 5 月 18 日富山国際会議場） 参加者 約 200 名

・日本核酸医薬学会 DDS 部会主催 合同サテライトシンポジウム 2019 日本核酸医薬学会，遺伝子・デリバリー研究会，日本薬剤学会 核酸・遺伝子医薬 FG の３団体合同シンポジウムを実施した. 核酸・遺伝子医薬 FG からは，秋田リーダーが FG の活動を紹介すると共に，浅井知浩先生，根岸洋一先生が講演を行った. （2019 年 7 月 13 日大阪市立大学文化交流センター）

- 【薬物相互作用・個別化医療 FG】

本 FG では薬物動態（または薬効）の個体間変動を創薬や臨床においてどのように捉え，対処すべきかについて，物理薬剤学から生物薬剤学の専門家，そして基礎研究者から，医薬品開発や医療分野の専門家が集う薬剤学会の特色を充分に生かした活動を展開する意図した活動を行った。本年度では，第 34 年会において下記のランドテーブルセッションを企画した.

・日本薬剤学会第 34 年会ランドテーブルセッション 4「Special population の薬物動態・薬効・副作用予測に求められる情報・技術とは？」
（2019 年 5 月 17 日 富山国際会議場） 参加者 約 150 名

- 【医療 ZD と完全分業 FG】

薬剤師が医師処方箋のレビュを含めた真の調剤を実践し，そのリスク管理の医療における ZD（Zero Defect）が達成されるよう，医薬分業の理念（医業薬業の完全分離，処方鑑査の徹底，薬剤師 Ethics を高揚し薬剤師の質的向上）を基盤としたシステム・教育の構築を目指す討論を進めてきた. 具体的には,

・2019 年 3 月 6 日，國際薬学連合（FIP）は，本学会が進めて来た「医師の調剤」廃止運動の支援を決定し公表した.

・2019 年 7 月 11 日，FIP 会長 Dominique Jordan は,日本薬剤学会の「医師の調剤」廃止のポリシーを支援する書簡を日本の厚生労働大臣宛てに交付した.

・完全分業の主張：現行の日本の任意分業は，「医師の調剤」を許すもので，“分”業の要素は微塵もないことを，FIP の「医師の調剤」廃止運動支援を機に，積極的に広報展開した.

・2020 年 3 月 30 日，FIP 会長 Dominique Jordan の東京講演（分業中心）を進めたが，COVID-19 の影響のため中止となった.

- 【DDS 製剤臨床応用 FG】

年会にてラウンドテーブルを企画・開催した. また，「エクソソームを利用した DDS の現状」についての情報の共有化と今後の課題を明らかにするため，合宿討論会を企画するとともに，日本薬学会でも同じテーマでシンポジウムを開催予定であったが，開催中止あるいは web 要旨の公開となった.

・日本薬剤学会第 34 年会ランドテーブルセッション 1「脳内薬物デリバリーの現状，課題，将来展望について考える」
（2019 年 5 月 16-18 日 富山国際会議場（富山）） 参加者 約 200 名

・第 9 回 DDS 製剤臨床応用 FG 合宿討論会
（2019 年 11 月 15-16 日 帝京大学箱根セミナーハウス（神奈川）） 台風による箱根登山鉄道の橋桁流出のため中止

・日本薬学会第 140 年会 シンポジウム「エクソソーム研究が拓く DDS の最前線」（2020

年 3 月 28 日 京都国際会館（京都））

- 【個別化製剤 FG】

・AMED「小児医薬品の早期実用化に資するレギュラトリーサイエンス研究」（代表者　中村秀文）の分担研究「小児用製剤の国際調和に向けた医療現場の課題整備に関する検討」（2019 年 4 月-2022 年 3 月）に協力し，EuPFI と連携して小児製剤の課題に関する情報交換を行う体制を準備した.

・日本薬剤学会第 34 年会にてシンポジウム「小児用製剤の開発促進：現状と課題解決に向けた取り組み」を開催.　参加者 約 100 名

・前年度までの研究成果として「小児用製剤の受容性に関する臨床試験結果」を摂南大学，昭和大学から同年会にて発表.

・小児製剤ハンドブックの出版企画（じほう）

・AMED との協賛で，小児製剤に詳しい 7 名の演者を招き，第 4 回個別化製剤 FG 研究会（2020 年 3 月 6 日，昭和大学上條記念館）を企画するも，COVID-19 の影響のため開催を中止した.

- 【物性 FG】

以下の行事を開催し，物性 FG 専用 HP も活用して情報発信，活動報告を行った.

URL:　http://bussei-FG.com/

・物性フォーカスグループセミナー2019　「熱分析を用いた医薬品原薬・製剤の物性評価―低分子から高分子まで―」（2020 年 2 月 21 日　星薬科大学）　参加者 92 名

・第 17 回 製剤技術伝承実習講習会 共催 2019 年 8 月 29-30 日　星薬科大学：製剤技術伝承講習会事業の項参照

- 【製剤処方・プロセスの最適化検討 FG】

2019 年度は，これまで実施してきた QbD 普及に向けた取り組みの集大成として，QbD に関する書籍の発刊（㈱じほうより 2020 年 5 月を予定）に向け，5 回委員会を開催して議論を進めた．また，これまでの検討を基に日本薬剤学会第 34 年会ラウンドテーブルセッションを企画・開催した．QbD 書籍発行に当たり，そのポイントを紹介するため 2020 年 3 月 6 日講演会を企画・準備を進めたが，COVID-19 の影響のため中止した.

活動詳細：

・委員会開催 5/15・7/11・9/5・11/6・1/24

・PMDA 松田先生面談（書籍執筆協力要請）　11/6

・日本薬剤学会第 34 年会 ラウンドテーブルセッション 2 「QbD に基づいた医薬品開発・製造-ライフサイクルマネジメントにどう対応するか」（2019 年 5 月 16 日　富山国際会議場）参加者　約 80 名

・第 2 回製剤処方・プロセスの最適化検討 FG 講演会（2020 年 3 月 6 日　慶応義塾大学）
COVID-19 の感染対策のため，開催中止とした.

-

- 【臨床製剤 FG】

日本薬学会でのシンポジウムを企画・立案し，他学会会員と討論・意見交換を行った.

・日本薬学会 第 140 年会　シンポジウム S237「我が国における小児用製剤開発促進に向けて―医療現場における課題ならびに国際調和への対応― 」（2020 年 3 月 27 日　京都国際会議場（京都）

・個別化製剤 FG と「小児用製剤の現状と課題」に関する共同事業追行の可能性についての討議を開始した（2019 年 6 月）

【前臨床開発 FG】

今後の医薬品開発において，人工知能(AI)の有効利用は不可欠である．また，AI の普及とともに働き方改革も進化し，より多様性の高い研究環境が重要となってくる．そこで，医薬品研究における AI とダイバーシティの最近の進展に関して，下記の通りセミナーを開催した.

・前臨床 FG セミナー2019「AI，ダイバーシティ，そして医薬」講演＆討論会
（2020 年 2 月 14 日　立命館大学）　参加者 37 名.

【超分子薬剤学 FG】

「超分子化学」と「薬剤学」との融合による「超分子薬剤学」を新たに立ち上げ，次世代の

薬剤学の創製を目的に活動している．2019 年度は次の活動を行った．

・日本薬学会第 139 年会一般シンポジウム S45「DDS の難題に挑む」において発表を行ったシンポジウムの内容を薬学雑誌の誌上シンポジウムに寄稿し，2020 年 1 月に受理された（2020 年 5 月掲載予定）．

・日本核酸医薬学会デリバリー部門との合同シンポジウムの開催を企画・立案し，日本核酸医薬品学会デリバリー部門側に受理された．（2020 年 9 月 10 日（予定），九州大学）．

・メンバー間の共同研究を積極的に推進し，科研費等の研究補助金の申請を行った．

・FG 活動の活性化を目指し，AI 技術の導入等を目的に追加した．

2　製剤設計における種差の問題検討会（略称：製剤種差検討会）事業

2016 年度より開始された製剤種差検討会は登録団体数が 2020 年 3 月末時点で 56 に達し，学会内外での認知度も高まっている．2019 年度は，通常の事例報告会 2 回（オブザーバーとして国立衛研，PMDA，東大医学部女性外科も参加）を開催した他，本検討会の大きな財産になりつつある質問箱の整理（約 140 件の質問＆コメント），種々の広報活動を実施した．

［事例報告会］

・第 8 回事例報告会（2019 年 7 月 19 日，キャンパスプラザ京都）　参加者 62 名

・第 9 回事例報告会（2020 年 1 月 24 日，城西大学東京紀尾井町キャンパス）　参加者 60 名

［学会誌投稿］

・薬剤学, 79(3), 152-154 (2019) に第 7 回事例報告会レポート（＆グラビア）掲載

・薬剤学, 79(6), 307-309 (2019) に第 8 回事例報告会レポート（＆グラビア）掲載

［学会・講演会活動］

・第 15 回日米 DDS シンポジウム（2019 年 12 月、米国マウイ島）招待講演で活動を紹介

制度改革担当理事

1　制度改革担当事業（制度改革 委員会）

- 公益社団法人として，2018 年度からの主体的運用を目指して持続性のある制度に整備した．

1.1　主体的な学会事務運営を行うために諸制度の制定・改定や専任人材を強化し，事務機能を充実した．

1.2　学会の持続性を考え，学会運営に関わる諸制度の検証，見直しの提案を行った．

年会長

1　年会事業

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行った．会員の口頭またはポスターによる研究発表の他，下記の各種講演・シンポジウム，ラウンドテーブルセッション,ランチョンセミナー，企業展示会等の多種多様なプログラムを設けたほか，若手の連携を意図した交流会を行った．

1.1　第 34 年会の開催

メインテーマ「薬剤・製剤における温故知新」

特別講演：2 演題，招待講演：1 演題

各種受賞者講演

一般講演（口頭，ポスター）　331 件

学術シンポジウム：6 セッション

特別企画シンポジウム，薬学教育シンポジウム，医薬品包装シンポジウム，SNPEE2019，各 1 セッション

ラウンドテーブルセッション：6 セッション

参加者 1,130 名， 2019 年 5 月 16-18 日

富山国際会議場，富山市民プラザ

1.2　第 35 年会組織委員会の開催：2019 年 3 月 22 日，5 月 17 日

学会運営

1　理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，法人のガバナンスを担う中心的な機能を果たすべく，以下のとおり理事会を開催した．

第 1 回理事会　　2019 年 4 月 26 日

第 2 回理事会　　2019 年 5 月 15 日
第 3 回理事会　　2019 年 10 月 4 日
第 4 回理事会　　2020 年 1 月 10 日

1　総会

正会員から選挙で選ばれた代議員で構成される学会の最高の決議機関である総会を以下のとおり開催した.

1.1　定時総会　　2019 年 5 月 16 日　富山県国際会議場　　出席者 136 名（委任状含む）

以上

なお，2019 年度事業報告には，「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない.

（参考）事業別収支（損益ベース）一覧

2019年4月1日から2020年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

事業名	経常収益計	経常費用計	当期経常増減額	備考
公益目的事業				
APSTJ2025推進事業	0	0	0	
国際標準医薬分業事業	0	9,909	−9,909	
学会賞等表彰事業	500,000	2,055,244	−1,555,244	
創剤開発・研究賞表彰事業	1,318,991	1,318,991	0	
広報委員会事業	0	0	0	
医薬品の包装と情報分科会事業	0	129,198	−129,198	
教育分科会事業	0	0	0	
学生シンポジウム事業	0	102,384	−102384	
国際学会等協力事業	0	1,766,712	−1,766,712	
英語セミナー事業	42,000	462,751	−420,751	
機関紙出版事業	532,521	4,904,448	−4,371,927	
「薬剤学」編集委員会事業	0	258,722	−258,722	
投稿論文審査委員会事業	0	0	0	
出版委員会事業	20,967	0	20,967	
製剤技術伝承講習会事業	8,989,000	6,112,019	2,876,981	
製剤技師認定事業	1,320,019	620,376	699,643	
製剤セミナー事業	6,685,007	6,201,986	483,021	
FG統括委員会事業	1,808,000	1,931,941	−123,941	
公開市民講演会事業	0	238,630	−238,630	
製剤種差検討会事業	475,000	455,346	19,654	
制度改革事業	0	346,361	−346,361	
年会事業	37,830,048	31,182,900	6,647,148	
共通	12,501,807	16,041,776	−3,539,969	
小計	72,023,360	74,139,694	−2,116,334	
法人会計	12,619,027	9,173,313	3,445,714	
合計	84,642,387	83,313,007	1,329,380	

貸借対照表

2020年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　資産の部			
1．流動資産			
現金預金	28,975,242	23,805,400	5,169,842
未収金	0	113,359	△ 113,359
前払費用	2,137,600	1,968,987	168,613
仮払金	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000
流動資産合計	32,112,842	27,887,746	4,225,096
2．固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	20,000,000	20,000,000	0
基本財産合計	20,000,000	20,000,000	0
(2) 特定資産			
タケルアヤヒグチ記念基金	35,000,000	35,000,000	0
創剤開発・研究賞積立金	1,418,691	1,237,682	181,009
学術集会基金	7,900,000	7,900,000	0
特定資産合計	44,318,691	44,137,682	181,009
(3) その他固定資産			
什器備品	132,750	196,470	△ 63,720
ソフトウェア	388,205	521,305	△ 133,100
敷金	271,000	271,000	0
その他固定資産合計	791,955	988,775	△ 196,820
固定資産合計	65,110,646	65,126,457	△ 15,811
資産合計	97,223,488	93,014,203	4,209,285
Ⅱ　負債の部			
1．流動負債			
未払金	2,548,901	2,118,801	430,100
前受金	30,000	0	30,000
前受会費	18,346,000	18,363,000	△ 17,000
預り金	2,033,695	137,899	1,895,796
仮受金	0	40,000	△ 40,000
未払消費税等	1,000,000	600,000	400,000
流動負債合計	23,958,596	21,259,700	2,698,896
負債合計	23,958,596	21,259,700	2,698,896
Ⅲ　正味財産の部			
1．指定正味財産			
寄付金	21,418,691	21,237,682	181,009
指定正味財産合計	21,418,691	21,237,682	181,009
（うち基本財産への充当額）	(20,000,000)	(20,000,000)	0
（うち特定財産への充当額）	(1,418,691)	(1,237,682)	181,009
2．一般正味財産	51,846,201	50,516,821	1,329,380
（うち特定財産への充当額）	(42,900,000)	(42,900,000)	0
正味財産合計	73,264,892	71,754,503	1,510,389
負債及び正味財産合計	97,223,488	93,014,203	4,209,285

正味財産増減計算書

2019年 4月 1日から2020年 3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

（単位：円）

科　　目	当年度	前年度	増　減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1．経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	46,871	93,742	△ 46,871
基本財産受取利息	46,871	93,742	△ 46,871
特定資産運用益	70,307	140,613	△ 70,306
特定資産受取利息	70,307	140,613	△ 70,306
受取会費	23,987,000	23,791,000	196,000
正会員受取会費	13,725,000	12,731,000	994,000
学生会員受取会費	1,362,000	1,860,000	△ 498,000
賛助会員受取会費	8,900,000	9,200,000	△ 300,000
事業収益	59,832,479	61,028,204	△ 1,195,725
学術集会・委員会等事業収	55,880,000	56,741,027	△ 861,027
参加費	27,742,000	27,255,627	486,373
意見交換会費	4,290,000	4,605,000	△ 315,000
助成金・補助金	800,000	1,503,000	△ 703,000
寄付金・協賛金	3,678,000	2,408,000	1,270,000
セミナー協賛金	4,212,000	5,010,000	△ 798,000
広告料	1,782,000	972,000	810,000
出展料	13,376,000	14,987,400	△ 1,611,400
学会誌等出版事業収益	553,488	1,017,997	△ 464,509
購読料	471,339	540,043	△ 68,704
投稿料・別刷料	30,456	247,557	△ 217,101
許諾料・使用料	51,693	142,269	△ 90,576
広告料	0	88,128	△ 88,128
学会賞等表彰事業	1,818,991	1,349,180	469,811
助成金・補助金	500,000	300,000	200,000
指定正味財産からの振替	1,318,991	1,049,180	269,811
製剤技師認定事業	1,580,000	1,920,000	△ 340,000
受験料	1,080,000	1,300,000	△ 220,000
認定料	500,000	620,000	△ 120,000
雑収益	705,730	212,258	493,472
受取利息	450	156	294
雑収益	705,280	212,102	493,178
経常収益計	84,642,387	85,265,817	△ 623,430
(2) 経常費用			
事業費	74,139,694	84,967,724	△ 10,828,030
給料手当	9,551,873	9,080,747	471,126
臨時雇賃金	2,914,630	2,010,252	904,378
法定福利費	850,943	296,535	554,408
会場費	13,037,761	13,470,727	△ 432,966
旅費交通費	6,769,831	7,749,575	△ 979,744
会議費	2,764,327	2,560,447	203,880
意見交換会費	7,096,955	8,363,159	△ 1,266,204
賞状・賞牌・副賞費	3,124,666	2,578,332	546,334
通信運搬費	1,118,377	1,149,232	△ 30,855
ウエブサイト管	1,381,259	2,737,284	△ 1,356,025
消耗品費	1,533,149	3,558,378	△ 2,025,229
印刷製本費	7,522,182	12,853,798	△ 5,331,616
賃借料	2,136,011	2,079,270	56,741
保管料	138,600	213,840	△ 75,240
保険料	44,160	0	44,160
諸謝金	4,531,887	5,503,357	△ 971,470
支払負担金	1,557,377	1,802,079	△ 244,702
業務委託費	7,837,732	8,087,544	△ 249,812
税理士報酬	0	406,364	△ 406,364
雑費	227,974	466,804	△ 238,830
管理費	9,173,313	11,431,443	△ 2,258,130
給料手当	2,408,896	2,382,921	25,975
法定福利費	214,600	77,815	136,785
旅費交通費	1,010,983	1,393,071	△ 382,088
会議費	755,490	906,680	△ 151,190
意見交換会費	0	0	0
通信運搬費	852,020	747,867	104,153
ウエブサイト管	253,433	581,118	△ 327,685
減価償却費	196,820	191,510	5,310
研修費	107,815	0	107,815
消耗品費	91,951	459,227	△ 367,276
印刷製本費	121,402	312,954	△ 191,552
光熱水費	0	30,780	△ 30,780
賃借料	476,311	485,067	△ 8,756
租税公課	1,007,100	1,386,160	△ 379,060
業務委託費	414,474	489,388	△ 74,914
税理士報酬	0	106,636	△ 106,636
公認会計士報酬	972,000	1,296,000	△ 324,000
雑費	290,018	584,249	△ 294,231
経常費用計	83,313,007	96,399,167	△ 13,086,160
評価損益等調整前当期経常	1,329,380	△ 11,133,350	12,462,730
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	1,329,380	△ 11,133,350	12,462,730
2．経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,329,380	△ 11,133,350	12,462,730
一般正味財産期首残高	50,516,821	61,650,171	△ 11,133,350
一般正味財産期末残高	51,846,201	50,516,821	1,329,380
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,500,000	1,500,000	0
一般正味財産への振替額	△ 1,318,991	△ 1,049,180	△ 269,811
創剤開発・研究賞基金	△ 1,318,991	△ 1,049,180	△ 269,811
当期指定正味財産増減額	181,009	450,820	△ 269,811
指定正味財産期首残高	21,237,682	20,786,862	450,820
指定正味財産期末残高	21,418,691	21,237,682	181,009
Ⅲ　正味財産期末残高	73,264,892	71,754,503	1,510,389

財産目録

2020年3月31日現在

公益社団法人日本薬剤学会　　（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)				
	現金預金			28,975,242
	現金	現金	事務局手許現金	356,136
	預金	普通預金		9,187,443
		三菱UFJ/江戸川橋	運転資金として	7,552,147
		三菱UFJ/江戸川橋(ｾﾐﾅｰ)	同上	483,021
		三住信/本店	同上	1,141,051
		みずほ/根津	同上	11,224
		郵振/会費	同上	17,858,191
		郵振/講習会	同上	1,573,472
		郵振/製剤セミナー	同上	0
	未収金	バナー広告掲載未収額他	公益目的事業及び法人会計への未収額	0
	前払費用	加盟団体年会費	公益目的事業の前払分	2,067,480
			法人運営の前払分	70,120
	仮払金		公益目的事業(年会事業)の仮払分	1,000,000
流動資産合計				32,112,842
(固定資産)				
基本財産			公益目的事業に必要なその他の活動の用	20,000,000
	普通預金		に供する財産であり、運用益を管理費に使用	20,000,000
		(普通)三住信/本店		20,000,000
特定資産				44,318,691
	ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益	35,000,000
		(普通)三住信/本店	目的事業(ﾋｸﾞﾁ記念各賞表彰事業)に使用	30,000,000
		郵振/会費	同上	5,000,000
	創剤開発・研究賞積立金		公益目的事業(創剤開発・研究賞表彰事業)	1,418,691
		(普通)三住信/本店	に使用	1,418,691
	学術集会基金		公益目的保有財産であり、運用益を公益	7,900,000
		郵振/会費	目的事業(年会事業)に使用	7,900,000
その他固定資産				791,955
	什器備品	パソコン	法人の管理運営に供している資産	132,750
	ソフトウェア	公益法人会計ソフト	法人の管理運営に供している資産	388,205
	敷金	事務所借室学会ｾﾝﾀｰﾋﾞﾙ	法人の管理運営に供している資産	271,000
固定資産合計				65,110,646
資産合計				97,223,488
(流動負債)				
	未払金	学会誌編集費, 事務委託費等	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,548,901
	前受金	認定事業受験料	公益目的事業の前受分	30,000
	前受会費	次年度以降会費	公益目的事業及び法人運営の前受分	18,346,000
	預り金	源泉所得税	公益目的事業及び法人運営の未払分	2,033,695
	未払消費税等	未払消費税等	当年度納付額概算計上額	1,000,000
流動負債合計				23,958,596
負債合計				23,958,596
正味財産				73,264,892

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
(1)固定資産の減価償却
固定資産の減価償却は定額法によっている。
(2)消費税等の会計処理
消費税の会計処理は、税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。 (単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	20,000,000	0	0	20,000,000
小計	20,000,000	0	0	20,000,000
特定資産				
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金	35,000,000	0	0	35,000,000
創剤開発・研究賞積立金	1,237,682	1,500,000	1,318,991	1,418,691
学術集会基金	7,900,000	0	0	7,900,000
小計	44,137,682	1,500,000	1,318,991	44,318,691
合計	64,137,682	1,500,000	1,318,991	64,318,691

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。 (単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	(うち一般正味財産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
定期預金	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
小計	20,000,000	(20,000,000)	(0)	(0)
特定資産				
ﾀｹﾙｱﾔﾋｸﾞﾁ記念基金	35,000,000	(0)	(35,000,000)	(0)
創剤開発・研究賞積立金	1,418,691	(1,418,691)		(0)
学術集会基金	7,900,000	(0)	(7,900,000)	(0)
小計	(44,318,691)	(1,418,691)	(42,900,000)	(0)
合計	64,318,691	(21,418,691)	(42,900,000)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。(単位:円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	254,880	122,130	132,750
ソフトウェア	665,496	277,291	388,205
合計	920,376	399,421	520,955

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。 (単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上
2019年度Award Grant 助成金	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	500,000	500,000	0	注)
助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	350,000	350,000	0	注)
スカラシップ・七つ星助成金(年会)	(公財)永井記念薬学国際交流財団	0	150,000	150,000	0	注)
助成金(年会)	田村科学技術振興財団	0	200,000	200,000	0	注)
補助金(年会)	富山コンベンションビューロー	0	100,000	100,000	0	注)
合計		0	1,300,000	1,300,000	0	

※注)いずれも当該年度内に目的たる支出が完了するため、貸借対照表上の記載はない。

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は, 次のとおりである。

内　容	金　額
経常収益への振替額	
事業収益	
学会賞等表彰事業	
創剤開発・研究賞積立金	1,318,991
	1,318,991

附属明細書

1. 基本財産および特定資産の明細
「公益法人会計基準」(平成20年4月11日、平成21年10月16日改正内閣府公益認定等委員会)に定める附属明細書の記載上の留意点に従い、財務諸表の注記3および4に記載しているので、内容の記載を省略している。

2. 引当金の明細 (単位:円)

科目	期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
なし	0	0	0	0	0

以上

報告書

2020年4月24日

公益社団法人日本薬剤学会
会長　竹内洋文　殿

馬目公認会計士事務所

公認会計士　馬目　利昭

１．確認の方法と概要

私は、公益社団法人日本薬剤学会の2019年度（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の財務諸表等、すなわち、貸借対照表、貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記、財産目録及び附属明細書について、確認を行いました。

確認に当たって、私は、試査を基礎とし、通帳、請求書、領収書等の関係証憑と会計帳簿間の照合、及び財務諸表等が会計帳簿に基づき適正に作成されているか検討を行いました。

２．意見

確認の結果、私は、上記の財務諸表等が、一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、公益社団法人日本薬剤学会の2019年度末日現在の財政状態及び同事業年度の正味財産増減を重要な点において適正に表示しているものと認めます。

以　上

監査報告書

公益社団法人　日本薬剤学会
会長　竹内洋文　殿

2020年4月28日
公益社団法人　日本薬剤学会

監事　山下伸二

監事　原島秀吉

私たちは、2019年4月1日から2020年3月31日までの2019年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1　監査の方法の概要

（1）会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて計算書類の正確性を検討した。

（2）業務監査について、理事会およびその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討した。

2　監査意見

（1）収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録、財務諸表に対する注記及び附属明細書は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支及び財産の状況を正しく示していると認める。

（2）事業報告書及び附則明細書の内容は真実であると認める。

（3）理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

以上